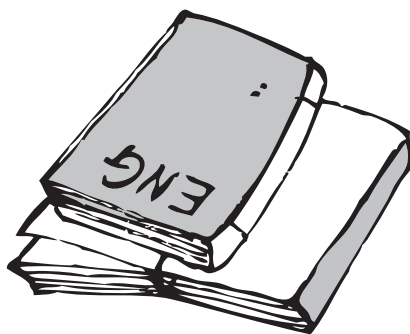


伸ばす親と伸ばせない親

～受験に強くなる、考える力を養う
小中学生の子育ての新常識～



株式会社 学習法指導塾PHI
切替 一薫

まえがき

ノートを変えれば成績が変わる！

勉強法が身につけば成績なんて勝手に上がる！

「勉強しなさい！」は言うだけ無駄！

勝手に勉強しだして次々と自己ベストを更新する子が続出している塾、学習法指導塾PHI（ファイ）の、人生を大逆転させる教育論。親が顧客である以上、本音では語ることがない教育の裏事情。親であるあなたがすべき教育の真実がここにあります。

さて、あなたは受験や試験で勝つ、合格するためには何が必要だとお考えですか？ 点数や偏差値？ 実績がある進学塾？ それとも優秀な脳や記憶力？

今までの教育は、いい大学に入ることを目標とされてきましたが、これからの時代は社会で活躍できる教育、生き方・働き方を教える教育が求められています。それが「考える力」です。今すでに、ここから逆算して試験問題が作られてきています。公立中高一貫はその顕著な例でしょう。私立中学も徐々に追随する動きを見せてきています。ということは当然、子どもの教育もそれに合う形にしていかなければならなくなります。

ところが、実は教育業界が困っていることがあります。それは、点数や偏差値が無意味になっていくにもかかわらず、親には言えない、伝わらないという事実。今まで数十年にわたって点数や偏差値を用いて教育してきた子どもたちが今、親世代となっているのです。そのため、「点数や偏差値の時代は終わりましたよ」と言っても顧客である親が納得してくれない。だから顧客である親に合わせて、本当にやるべき教育、やりたい教育をねじ曲げて提供している現状があるのです。

では文部科学省が定めている教育の指針「考える力」を育てる教育とは、どのような教育でしょうか。ザックリまとめるなら、「社会で生きていく力」「予測困難な社会に対しても対応できる力」「国際社会で活躍できる力」です。「社会は丸暗記だ！」と教えられて、丸暗記だけでテストをしのいできた子が、暗記だけで生産性の高い働き方ができるようになりますか？「勉強しなさい！」と強制的に塾や机に縛りつけられてきた子が、縛る人がいなくなったときに、どのような生き方ができますか？「偏差値が少しでも高い学校に行くのよ！」と教えられて育った子は、社会に出て何を基準に生きていきますか？

中学受験や高校受験を否定するつもりはありません。成績や偏差値も、無意味だとは言いません。丸暗記がいけないとも言いません。しかしあまりに過度な期待や指針の対象とするのはどうかと思うのです。

学習法指導塾PHIでは、点数が上がっても叱ります。逆に下がって褒めることもあります。学校のテストや受験に関係ないことをガンガン教えます。教科書やテキストに沿った授業は、ほとんどありません。小学生にだって、中学生の内容や高校生の内容まで教えてしまいます。学年なんて関係ありません。勉強法も無駄が多く、時間ばかりかかります。テストや点数のための勉強なんてものはしません。だから成績も全然上がりません。それでもあるとき突然、ポーンと成績が伸び、気づいたら目標を達成しているのです。でも子どもたちは言います。「こんなじゃまだダメ。もっとできた」。この子たちは点数や成績のために勉強しているのではなく、また受験の合格だけが目標になっていないのです。だから放っておいても勝手に勉強し、良い成績が取れるようになります。中学受験で失敗しても、高校受験で挽回します。高校受験で失敗しても、大学受験で巻き返すといったような、失敗してもそこから学べる子になるのです。

この本では、これらPHIの教育とともに、親としてどうあるべきか、子どもにどう接すればいいか、これからの教育にどう対応すればいいか、などを具体的なケーススタディーを交えて書きました。子どもの教育で悩んでいる方、勉強させ

たいと考えている方、将来生きていける力を身につけさせたいと考えている方。ここまで読んでくださっているあなたは、子どもの教育を本気で考えている方でしょう。しかし、この本を見た、読んだだけでは何も変わりません。そのためここで一つ、覚悟を決めてから先へ読み進めていただきたいと思います。

あなたは「子どものために自分が変わる！」という覚悟がおありですか？